今昔物語集『羅城門』定期テスト対策問題

組　　番　　氏名　　／100点

■ 本文

今は昔、摂津の国のあたりより、盗みせむがために京に上りける男の、日のいまだ暮れざりければ、羅城門の下に立ち隠れて立てりけるに、朱雀のかたに人しげく行きければ、人の静まる〔①〕までと思ひて、門の下に待ち立てりけるに、山城のかたより人どものあまた来る音のしければ、それに見えじと思ひて、門の上層にやはら〔②〕かきつきて登りたりけるに、見れば、火ほのかにともしたり。

盗人、あやしと思ひて、連子よりのぞきければ、若き女の死にて臥したるあり。その枕上に火をともして、年いみじく老いたる嫗の白髪白きが、その死人の枕上に居て、死人の髪をかなぐり抜き取るなりけり。

盗人、これを見るに、心も得ねば、「これはもし鬼にやあらむ」と思ひて恐ろしけれども、「もし死人にてもぞある、脅して試みむ〔③〕」と思ひて、やはら戸を開けて、刀を抜きて、「おのれは、おのれは」と言ひて走り寄りければ、嫗、手まどひをして、手をすりてまどへ〔④〕ば、盗人、「こはなにぞの嫗の、かくはしぞ」と問ひければ、嫗、「おのれが主にておはしましつる人の失せ給へるを、あつかふ人のなければ、かくて置き奉りたるなり〔⑤〕。その御髪の、丈に余りて長ければ、それを抜き取りて鬘にせむとて抜くなり。助け給へ〔⑥〕」と言ひければ、盗人、死人の着たる衣と、嫗の着たる衣と、抜き取りてある髪とを奪ひ取りて〔⑦〕、下り走りて逃げて去りにけり。

■ 設問（全22問）

1. 次の傍線部を、それぞれ文脈に合うように現代語訳しなさい。

　傍線部①「静まる」

　傍線部④「まどへ（ば）」

2. 次の傍線部の意味として最も適当なものを、それぞれ説明しなさい。

　傍線部②「やはら」

　傍線部⑦「奪ひ取りて」

3. 本文中の「火ほのかにともしたり」を現代語訳しなさい。

4. 次の語句の本文中での意味を、それぞれ答えなさい。

　「あやし」（盗人、あやしと思ひて）

　「嫗」

　「鬘」

5. 本文中の「連子」とは、ここではどのようなものを指すか、簡潔に説明しなさい。

6. 本文中の過去の助動詞「けり」（「登りたりけるに」「抜き取るなりけり」などの「けり」「ける」）の文法的意味（用法）を答えなさい。

7. 本文中の「これはもし鬼にやあらむ」を現代語訳しなさい。また、この一文に用いられている係助詞「や」について、結びの語と係り結びの関係（文末がどう変化しているか）を説明しなさい。

8. 盗人が「脅して試みむ」と思ったのは、老婆の姿を見て何ではないかと考え、それを確かめようとしたからである。盗人がこのとき何を疑い、どうしようと考えたのかを説明しなさい。

9. 傍線部③「脅して試みむ」の「む」は助動詞である。その文法的意味（用法）を答え、あわせて盗人がこのとき抱いた心情を簡潔に説明しなさい。

10. 冒頭の「盗みせむがために」の「む」と、傍線部③「脅して試みむ」の「む」とでは、助動詞「む」の用法が異なる。それぞれの用法の違いを説明しなさい。

11. 老婆の会話文中の「おはしましつる」「失せ給へる」に用いられている敬語の種類を、それぞれ答えなさい。また、これらの敬語が示す、老婆と亡くなった人物との関係を説明しなさい。

12. 傍線部⑤「あつかふ人のなければ、かくて置き奉りたるなり」を現代語訳しなさい。また、この一文に用いられている敬語「奉り」について、次の点を答えなさい。

    敬語の種類（尊敬・謙譲・丁寧）

    誰に対する敬意か

13. 傍線部⑥「助け給へ」について、次の点を答えなさい。

    「給へ」の敬語の種類

    この敬意が「誰から誰へ」向けられたものか

14. 盗人は、なぜ羅城門の上層によじ登ったのか。その理由を本文に即して説明しなさい。

15. 老婆は、若い女の死人の髪を抜き取って、何にしようとしていたのか。本文に即して答えなさい。

16. この説話における盗人の心情は、本文の前半から後半にかけてどのように変化したか。老婆を見つけてから衣をはぎ取るまでの流れに即して説明しなさい。

17. 老婆が、死者の髪を抜くという行為を正当化するために述べた「論理（言い分）」を、本文に即して説明しなさい。

18. この『羅城門』を原典として書かれた芥川龍之介の小説『羅生門』では、結末が今昔物語集と大きく異なる。両者の結末（盗人＝下人がどうなるか）の違いを、簡潔に説明しなさい。

19. 芥川『羅生門』の主人公「下人」と、この説話の主人公「盗人」とでは、人物の設定が大きく異なる。両者の設定の違いを説明しなさい。

20. 【文学史】『今昔物語集』について述べた次の説明の空欄に入る語句を、それぞれ答えなさい。
    『今昔物語集』は、各話が「（　ア　）」という書き出しで始まる、（　イ　）末期に成立したと考えられる日本最大級の（　ウ　）集である。天竺・震旦・本朝の三部から成り、貴族から庶民まで多彩な人々の姿を描く。

21. 【文学史】『今昔物語集』は、収録された話の舞台によって三つの部に分かれている。その三つの部「天竺・震旦・本朝」が、それぞれ現在のどの地域（国）を指すかを答えなさい。

22. 【文学史】『今昔物語集』と同じく、平安時代から鎌倉時代にかけて作られた「説話集」の作品を、一つ挙げなさい。